

八幡平市



2人芝居「父と暮らせば」を演じる、娘・美津江役の石羽根裕美さん(写真左)と、父・竹造役の佐藤新さん

「ふるさと発信株式会社」が松尾初公演

安代地区を中心に活動する市民劇団「ふるさと発信株式会社」(村上直樹代表、団員15人)は5月28日、松尾ふれあい文化伝承館で第8回公演を開きました。

合併記念特別公演として、初めて安代地区以外で開催。主演の石羽根裕美さんが松尾寄木に住んでいることから、松尾地区での出張公演が決まりました。



公演を成功させた、ふるさと発信株式会社の皆さん

今回の演目は井上ひさし原作の2人芝居「父と暮らせば」。原爆が投下された昭和20年ごろの広島が舞台です。

主人公の「美津江」は、原爆で親や友人を亡くし、一人だけ生き残った負い目から、人を愛することを拒絶しようとする娘。美津江が抱く本当の気持ちに気付かせようと、天国から父・竹造が現れ、娘を必死に応援する物語です。

公演を楽しみに訪れた観客約50人は、主役2人が演じる親子の物語を食い入るように観賞。戦争の悲惨さや、平和の大切さなどについても、考えさせられました。

西根地区の中学生に夜光反射材を贈呈



下校時に自転車のスポークに反射材を付ける生徒たち

西根地区交通安全協会と同西根地区母の会は5月26日、同地区中学校2校の全生徒に、自転車用夜光反射材を贈りました。

贈呈式は西根中学校で行われ、交通安全協会会長も務める竹田信男西根地区会長が交通安全を願い、生徒に夜光反射材を手渡しました。

夜光反射材は、自転車前輪のスポークに取り付けるタイプ。車のライトを反射して、ドライバーに注意を促します。

安代小6年生が保育士の仕事に大奮闘

将来の職業選択に役立てようと安代小学校の6年生35人は5月31日、あしる保育所で保育士体験学習を行いました。

この授業は、総合学習の一環として「将来の夢」をテーマに実施。園児とゲームやふれあい体験を通して、保育士の仕事を学ぶことが目的です。

児童たちは、年齢ごとのクラスに分かれて、園児たちと交流。ゲームをしたり、給食を食べさせたりしながら、仕事について理解を深めました。



園児とふれあいながら、ご飯を食べさせる児童たち